

【2日目/5月23日(つづき)】



竹富島は小さな離島で、ほとんど標高差もないので、港に降り立った観光客は、レンタサイクルで回るのが人気です。私も港に泊まっていたレンタサイクル屋さんのマイクロに一度は乗ったのですが、説明を聞くと、実質1時間ぐらいしか借りられないことがわかり、結局歩いて島を見て回ることにしました。



車や自転車とちがって、歩くといろいろなものがよく見えます。道端に放牧されている牛の群を見つけました。この島は牧畜も盛んなのです。



仔牛もいました。今年生まれたのでしょうか。人を恐れることもなく、愛想よく写真に収まってくれました。



八重山列島では、このサトイモの化け物のような葉をよく見かけます。これは「クワズイモ」というサトイモ科の植物です。「食わず芋」という意味です。奄美でもよく見かけました。これも田中一村が日本画の題材として好んで描いた植物の一つです。



ヤギもつながれていました。そばにクワズイモがありましたが、毒があると知っているのでしょうか。見向きもしていませんでした。私はいつかヤギを飼いたいと思っています。名前は「ポニョ」と決めています。



バナナも普通に見かけます。私はバナナが木に実っているのを初めて見ました。一応栽培されている木のようなのですが、あまり手入れはされていないように見えました。いや、バナナは特に手入れは必要ないも



のなのかも知れません。



バナナが並木道のようになっていました。「バナナ並木」というのは非常に珍しいですね。



いよいよ集落の中に入ります。港からゆっくり歩いてもせいぜい15分ぐらいです。竹富島は独自の「竹富島憲章」によって、景観を徹底的に守り抜いている

島です。「不動産を売買する時や、建物の新築、増改築、取り壊しを行う時は事前に公民館と調整委員会に届け出る」という厳しい規則があるのです。そのような努力によって、こうした沖縄らしい景観が保たれているのです。



これは小学校です。学校も周囲の景観によく馴染んでいると思いました。こんなおらかな雰囲気の中で生活する子どもたちは幸せでしょうね。



どの家屋にも人の生活があるので、勝手にパチパチ写真を撮るのは良くないとはわかっているのですが、つつい何十枚も写真を撮ってしまいました。自転車ではなかなかこうはいかなかったと思います。



これは「シーサー」という沖縄の伝統的な獣像です。屋根や門柱でよく見かけ、「魔除け」の意味があるのだそうです。私も一頭設置したいと思いました。